



独立行政法人国立病院機構

呉医療センター・中国がんセンター

広島県呉市青山町3-1 TEL 0823-22-3111 (夜間・休日 TEL 23-1020)

<http://www.kure-nh.go.jp>

発行責任者 呉医療センター院長 上池 渉



川口千鶴子(呉市音戸町)

独立行政法人国立病院機構呉医療センターの理念

- 患者さまに信頼される質の高い医療をめざします。
- 患者さまの生命と人権を尊重します。
- 職員が誇りをもって働ける病院をめざします。
- 自立した健全な運営をめざします。

CONTENTS

就任挨拶	2
事務部長就任のごあいさつ	3
呉医療技術研修センター運用開始のお知らせ	4～5
救急外来について	6
「血液内科」について	7
体に優しい痛みの少ない胸部の内視鏡手術(胸腔鏡手術)	8～9
院外処方せんにご協力を	10～11
～抗血小板薬、抗凝固薬を服用している患者さんへ～	
手術・検査をする前に注意が必要な薬	12～13

職場紹介7B病棟	14
職場紹介8A病棟	15
入学式を終えて思うこと	16
ナイチンゲール生誕祭 呉看護学生自治会行事	17
連携病院紹介(森本医院)	18
地域連携病院訪問記	
(マッターホルンリハビリテーション病院・呉中通病院)	19
バリ舞踊のイベントを開催しました。	20
編集後記	20



就任挨拶

副院長・看護部長 青 芝 映 美

平成22年4月1日付けで、副院長兼看護部長として赴任いたしました。

私は、これまで臨床、教育、行政の経験をさせて頂き、岩国医療センターから転勤して参りました。呉医療センターで勤務するのは今回が初めてです。700床の病床をもち、職員数も1,000人を超え、その6割が看護職という大きな施設での重責に身の引き締まる思いですが、病院の理念・方針のもと、努力して参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

「良質の医療の提供」という時、私は、いつも心しておかなければいけないことがあります。それは、医療提供者と受け手との間には「深く大きな河」が存在するということです。それは、「手術」を例にとってみても、医療者側にとっては、日常茶飯事の出来事であっても、患者側にとっては、一生に一度の出来事であった

りするわけです。そして、この対岸にある両者をつなぐのは「コミュニケーション」という“橋”であると言えます。私たち医療者はこの現実を認識した上で、信頼関係に基づくコミュニケーションに努めなければなりません。

看護部では、「やさしさと責任をもった質の高い看護の提供」を目標に取り組んでいます。職員一人ひとりが組織の一員として深く自覚し、専門職としての自信と誇り、やりがいをもって、活き活きと自律していけるよう支援していくことも重要な責務と思っております。

自己に与えられた役割を深く自覚し、努力していく所存ですので、皆様どうぞよろしくご支援頂きますようよろしくお願いいたします。



久保成子(呉市音戸町)



事務部長就任のごあいさつ

事務部長 兼 生 夫

4月1日付で事務部長として着任しました。どうぞよろしくお願いいたします。

呉医療センターでの勤務は初めてになります。出身は広島県ですが、広島での勤務が長いので、半分地元に戻ったように感じております。私の最近約10年間は、中国四国厚生局で国立病院・療養所の独立行政法人化に向けた業務等の5年間、岡山医療センターで独法化による企業会計の導入等の3年間、関門医療センターでの新病院の移転新築等の3年間の勤務をしてまいりました。

呉医療センターは、高度総合病院、中国がんセンター、救命救急センター、各種疾患の専門医療、臨床研修、臨床研究等々の機能を有し、地域の中核病院としての役割はもとより、国立病院機構の中でもリーダー的な役割を占めており、全職員が一丸となってまい進している証であると感じています。

さて、国立病院は、独法化後6年が経過し、第2期中期計画に入っておりますが、最近、マスコミを賑わしている行政刷新会議の事業仕訳の対象になったり、非公務員化の話もいよいよ現実味を帯びて来ている状況になっています。

そのような中、事務職は国立時代の感覚からどこまで意識改革ができたのか、まだまだできていないところがあるのではないかと考えています。現在の事務職は、企業会計等の諸法令・規則に精通するとともに、病院の理念・運営目標に沿った戦略・戦術の立案、各種資料の作成能力も含めた、分析力・企画力・立案力が必要になってきていると思います。

事務職一人ひとりが問題意識を持って成長していけるように、また、職員の働きやすい環境づくり、経営改善等、少しでもお役に立てればと考えておりますので、皆様のご指導とご支援を頂きますようよろしくお願いいたします。



山本幸枝(呉市音戸町)



呉医療技術研修センター運用開始のお知らせ

副院長・呉医療技術研修センター長 森 脇 克 行

平成22年4月26日、呉医療技術研修センター（以下、技術センター）が正式にオープンしました。技術センターは、呉医療センター附属呉看護学校の隣、旧リハビリテーション学院跡を改修して開設されました。今回は、運用を開始した技術センターについて、紹介させていただきます。

設立の目的と経緯

技術センターの設立目的は、『医療従事者、患者家族・一般市民を対象として、シミュレーション教育機器などを用いて、日進月歩の医療技能を効率よく研修できる場を提供すること』です。この施設は、平成20年、佐治・前院長のもとに、模擬病棟をもつ研修センターとして構想されました。平成21年5月、上池 渉・現院長のもとに、新しい設立コンセプトを策定し、同年12月、施設名を“呉医療技術研修センター”と正式に命名。平成22年3月25日改修工事を終え、5月から運用を開始しました。

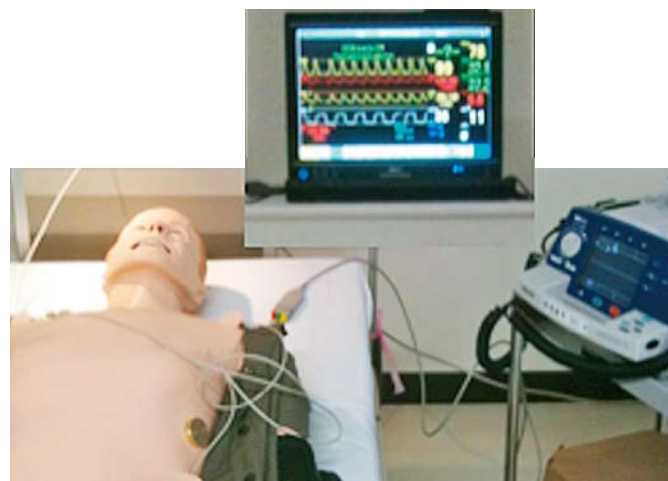
歴史的な意義

さて、20世紀の最後の10年間（1990年代）、分子生物学や医療テクノロジー、EBM（臨床科学的な根拠に基づく医療）、さまざまな医療分野の国際的ガイドラインの策定などに支えられて、医療は急速に進歩しました。その進歩は21世紀に入った今日でも止むことはありません。その日進月歩の医療を現場に速やかに取り入れる必要性が、以前にも増して高くなっています。また、一般市民の方々にも医療知識や技術を啓発する必要性が高くなりました。例えば、AED（自動体外式除細動器）の使用や適切な心肺蘇生法、在宅ケアの技術や正しい知識の普及などです。

最新の医療を現場に迅速に取り入れるために、1）シミュレーション教育、2）情報技術（インフォメーション・テクノロジー）の利用や、3）成人に適した教育研修手法などが開発されています。このような教育研修が可能な施設が、先進諸国では大学医学部や、大きな病院に設けられるようになりました。今回、呉医療センターに開設された技術研修センターは、病院に設置されたシミュレーション教育研修施設としては、中国四国地方でも屈指の規模を誇ります。

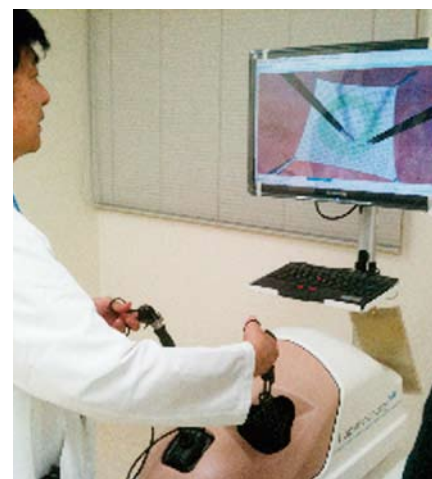
施設とシミュレーション器材のご紹介

研修設備と機器の一端をご紹介します。高度患者シミュレータ（写真-1）は、心電図や血圧が変化し、中には汗をかくたり、瞬きをしたり、瞳の大きさが変化し、呼吸もする人間そっくりのシミュレーション人形です。模擬病棟に、このような人形を設置して、緊急処置などリアルなシミュレーション研修ができるようにしています。



（写真-1）

内視鏡手術トレーニング室には、内視鏡手術のトレーニングを行うことができる高度なシミュレーションシステムやトレーニングボックスが設置されています（写真-2）。



（写真-2）

また、NICU（新生児集中治療室）や分娩室の模擬病棟には、乳児や新生児、妊婦のシミュレーション人形が備えられています（写真-3）。在宅介護・ケアトレーニング室では、入浴、トイレ、喀痰吸引、調理や食事の介助など在宅ケアに必要なノウハウを、シミュレーションを通して学ぶことができます。（写真-4）



（写真-3）

（写真-4）



（写真-4）

以上、新しく当院に開設された、技術研修センターについてご紹介しました。今後、専門的な医療技術の研修以外に、患者ご家族や一般市民向け研修として、1）日常生活のなかで起こる緊急事態への対処法、2）在宅ケアなどで生じる問題への対処法などの講習会も企画する予定です。また、9月26日に開催する当院の“メディカルフェスタ”でも、技術研修センターを利用した催しを企画しています。技術研修センターが、その活動を通して地域医療サービスの質の向上に、少しでもお役に立てるよう病院をあげて努めて参りたいと思います。どうぞ宜しくお願いします。



呉市医師会内科夜間救急センターについて

救命救急センター部長 宮 加 谷 靖 介

呉市医師会内科夜間救急センターが、平成22年4月1日より開設されました。診療日時は、日曜、祝日、年末年始、お盆の期間を除く平日の午後7時30分から午後11時までです。現在、呉市医師会内科医の有志の先生方で運営されています。

まず、救急センター設立までの経緯をお知らせいたします。

平成16年度から新しい新人医師の研修制度（新臨床研修医制度）が開始され、平成19年頃から呉地域でも大学からの派遣医師が大学へ呼び戻されて病院勤務医が少なくなりました。一方、救急外来の患者数・救急車搬送件数は全国的に増加し、当院でも救急外来受診者数は毎月1,500名から2,000名近くに増加しました。病院勤務医は少ない人数で、救急外来・一般外来・入院患者さんの治療を行う多忙な勤務が続き疲弊しました。呉市医師会の先生方にこの窮状をお話ししたところ、地域医療を守るために呉市医師会の内科系の先生方が立ち上がってくださり、病院勤務医の過剰労働を軽減する目的で開設されました。（医師会の先生方も、自院での診察・学校医・産業医・老人福祉施設での診療等でご多忙ではあるのですが、地域医療を守るとの熱い気持ちで参加されています。）

患者さんにとりましては、呉市医師会内科夜間救急センターを受診されてさらなる精密検査や入院加療が必要と判断された場合救急センターから呉市内の5病院に紹介していただき、5病院は必ず診察させていただく事が決められています。よって、安心して受診していただきたいと思います。また、当院では初診時に紹介状がない場合は保険外併用療養費5,250円をいただいておりますが、救急センターからの紹介ではかかりません。

当院は呉地域での唯一の3次救急医療機関です。厚生労働省が指定した救命救急センターとして受け入れなければ成らない重篤患者を昨年は917名収容し治療を行いました。

患者さんには、当院の医療スタッフが瀕死の重篤患者の救命に専念できますように内科夜間救急センターの設立の趣旨をご理解いただいて、救急センターの診察時間には「呉市医師会内科夜間救急センター」を受診していただくようお願いいたします。

4月の開設 平日 午後7時30分～午後11時 内科夜間救急センター

平日の月曜日から土曜日 (日・祝、8/13～8/15、12/31～1/3を除く) の
午後7時30分から午後10時40分まで
内科の受付をいたします。

呉市医師会では開業病院医師の協力のもとに、
呉市における夜間の内科救急センターを開設します。

- 内科は平日に限って呉市医師会の医師が交代で担当します。
※日・祝、8/13～8/15、12/31～1/3を除きます。
- 小児科は呉市医師会と公的病院（中国労災病院、呉共済病院、国立病院機構呉医療センター）の医師が毎日交代で担当しています。
- 切り傷や骨折等の外科的な処置には対応できません。
急な発熱や下痢、嘔吐、咳等の比較的症状の軽い場合に下記センターをご利用ください。お子様も小児科を受診いただけます。
- 平日の昼間は、お近くの医療機関をご利用ください。

呉市医師会 内科夜間救急センター・小児夜間救急センター

受付場所 呉市医師会病院 1 階（呉市朝日町15-24）
TEL 0823-32-1299

受付時間
内 科 平日 19:30～22:40
※日・祝、8/13～8/15、12/31～1/3を除く
※平成22年4月より開設
小児科 毎日 19:00～22:40

受診の際は必ず健康保険証をご持参ください。
また、小児科を受診される際に、乳幼児医療費
受給者証、ひとり親家庭医療費受給者証等をお
持ちの方はあわせてご持参ください。
なお、公的病院への受診が必要な場合には、当
センターから紹介いたします。

「血液内科」について

内科医長 新 美 寛 正

血液内科ときいて、どんな病気を取り扱っているのかピンとこない方が多いと思います。そこで今回は、血液内科がどのような病気をどんな方法で治療しているのか、ということをご説明したいと思います。

まず血液内科を受診するきっかけですが、血液異常（白血球、赤血球、血小板）を指摘された、リンパ節がはれた、などが多いです。これに対して骨髄検査（腰骨の後方にある腸骨に局所麻酔をしたのちに針をさして、骨のなかにある骨髄液を採取する検査）を行ったり、リンパ節生検を行って診断をつけていきます。

代表的な病気ですが、貧血（骨髄異形成症候群、再生不良性貧血など）、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、特発性血小板減少性紫斑病、骨髄増殖性疾患などがあります。貧血では、鉄やビタミンが不足することでおこる、治療で改善しやすい貧血もありますが、血液内科であつかう貧血は、治療で改善しにくく輸血が定期的に必要となるものも多いです。

急性白血病では、抗がん剤治療とそれに引き続く無菌室管理、加熱食、抗生剤内服などの感染対策を何回もくりかえし、人間の極限状態でたたかっています。抗がん剤治療で治るのが難しいと考えられた場合は、さらに極限状態の造血幹細胞移植という血液疾患に対する切り札治療をおこないます。移植には大きく分けて抗がん剤投与後にあらかじめとっておいた自分の幹細胞を移植する自家移植法と、白血球の型が一致した家族もしくは他人の幹細胞を移植する同種移植に分けられます。病気の状態、年齢、臓器障害の有無を判断材料とし、移植することになった場合は、無菌室に入室していただき、大量の抗がん剤や全身放射線照射を行い、続いて幹細胞を移植します。移植細胞の生着を確認し、移植後合併症（移植片対宿主病、感染症など）から回復できれば、退院可能です。2～4か月の入院が必要です。

以上は従来からある治療法ですが、最近是新薬の開発により、一部の病気ではより苦痛を伴わずに劇的に寿命

がのびていますし、そのほかの各疾患とも徐々に治療成績が向上してきています。

最後に当科の紹介をさせていただきます。当科は呉医療圏唯一の血液内科として、呉地区はもちろん、周辺地区からも患者さんの紹介をいただいております。またあらゆる疾患に対して標準的治療を行いうる態勢を整え、骨髄バンク・臍帯血バンク認定施設にもなっており、広島の移植医療に大きく貢献しております。これからも呉医療センター血液内科をどうぞよろしくお願い致します。



無菌室

体に優しい痛みの少ない胸部の内視鏡手術（胸腔鏡手術）

国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター

呼吸器外科 山下 芳典, 原田 洋明, 三隅 啓三

痛みのため胸部の術後に術側の胸を手で押さえながら
そろりそろりと歩かれる患者に、胸を大きく開く手術が
どれほど体への負担が大きいのかを肌で感じていまし
た。医学部を卒業したての頃、外科の病棟でよく見た光
景です。この術後の胸部の痛みは肋骨と肋骨の間にある
肋間神経を痛めるためといわれていて、図1のように傷
とは離れている前胸部から少し側胸部にかけて痛いのが
特徴です。あれから30年近くが過ぎ、私は主に肺がんを
対象とした胸部の外科医になっています。最近、胸の手
術の傷は年々小さくなってきています。それは体にやさ
しい肋骨や筋肉で構成された胸壁への負担を小さくしよ
うとする結果からです。胸の手術を受けられた患者の術
後の切実な問題は胸部の痛みで、胸部外科医が長年にわ
たってコントロールしようとして努力してきましたが、
今日に至っても解決されていません。そこに登場したの
が、小さな傷で施行可能な胸部の内視鏡手術、すなわち
胸腔鏡手術なのです。



図1. 胸部手術の術後に発症する痛み：傷の場所ではな
く肋間神経に沿った領域に痛みを生じます。

ここ呉医療センター・中国がんセンターの呼吸器外科
では、肺がんの手術を中心に体にやさしい質の高い医療
を地域の皆様へ提供できるよう努めています。教育面で
は平成22年4月に内視鏡トレーニング施設を設置し、呼
吸器外科専門医機構の基幹施設であり、当院の関連施設
として広島県内を中心に呼吸器外科を専門とする主な4

つの呼吸器外科を持つ総合病院を登録し指導的立場にあ
ります。特に胸腔鏡を最大限利用して徹底した体にやさ
しい（低侵襲）手術を施行するよう心がけています。呼
吸器（胸部）外科として年間150例前後の手術を行って
おり、その内訳は肺がん（年間60-80例の手術）や、気胸（年
間20-40例の手術）などの肺の良性疾患を始め、縦隔（左
右の肺の間の心臓や大血管のある場所）や胸壁の疾患で
す。これらの手術は外科に属する3名の呼吸器外科医が
中心となって担当し、そのほとんどの手術において胸腔
鏡が登場し、図2のような胸部の内視鏡手術が施行され
ています。

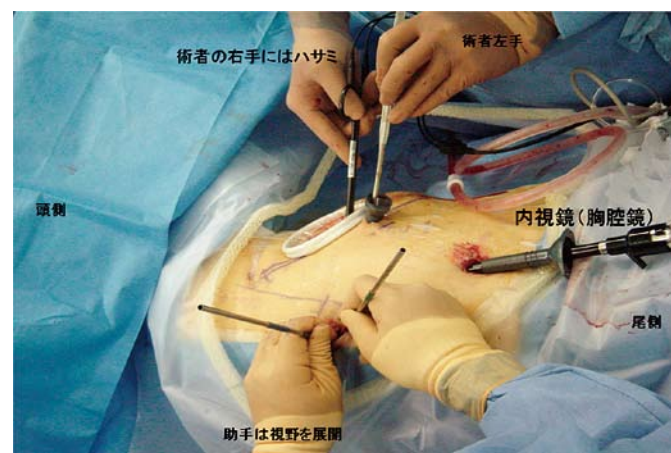


図2. 胸腔鏡手術の実際：術者の視線はモニターの方
向です。小さな穴から長い道具を胸の中に入れて操
作します。

特に、肺がんに対しては胸腔鏡を最大限利用して体に
やさしい徹底した低侵襲手術を施行しています。原発性
肺がんの進行度IA（リンパ節転移のない3cm以下の肺
がん）に対しては、現状では最も体に優しいと考えられ
る完全胸腔鏡下肺葉切除術とリンパ節郭清術を施行して
います。癌の手術として根治性を損なわず、図3のよう
に2-4cmの傷で切除可能で、術後の創部痛が極めて少
ないのが特徴です。回復は早く1週間以内の退院が可能
となります。進行度の高い肺がん手術においても、少し
だけ傷は大きくなりますが、胸腔鏡を補助的に使用して
肺葉切除術とリンパ節郭清術を施行しています。



図3. 左側の従来の開胸手術に比べると、右側の胸腔鏡の傷は格段に小さくなり
ました。しかも手術の質の高さは同様です。

痛みのない胸部の外科手術は患者にとってどれだけ福
音となりうるか、われわれ胸部外科医にとって長年の夢
です。図4は、クラナッハルーカス作の「回春の泉」と

いうベルリン美術館所蔵の絵ですが、本院は「回春の泉」
となるべく、痛みのない胸部手術を目指して、内視鏡手
術を効果的に安全に施行していく所存です。

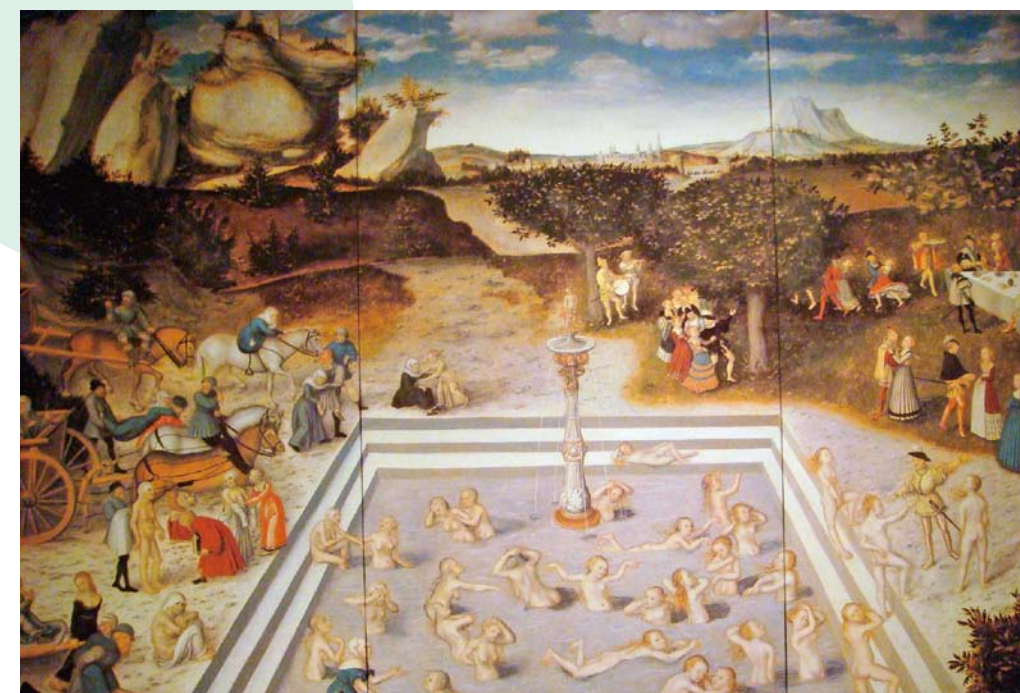
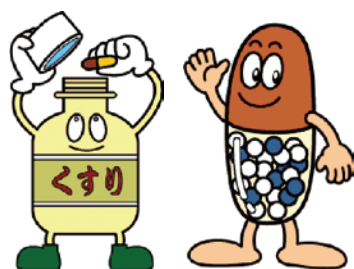


図4. 向かって左側に高齢者や病気をもつ人々が描かれ、右側には泉に入った後
で食事やダンスなどを楽しむ人々が描かれています

院外処方せんにご協力を

薬 剤 科

当院では、より質の高い医療サービスを提供するため、平成9年8月1日より院外処方せんの発行（医薬分業）を積極的に実施しています。



当院では、呉市薬剤師会と協力して、患者さんの院外処方せんをファックスにて調剤薬局へ送信しています。

あらかじめファックスで処方せんを送信することにより、お薬をお渡しする待ち時間が短縮されます。



外来患者さんへの処方は、特別の場合を除いて全て院外処方せんで対応させていただいておりますのでご了承ください。

詳しくは、医事課窓口⑥：院外処方せん窓口でお尋ねください。

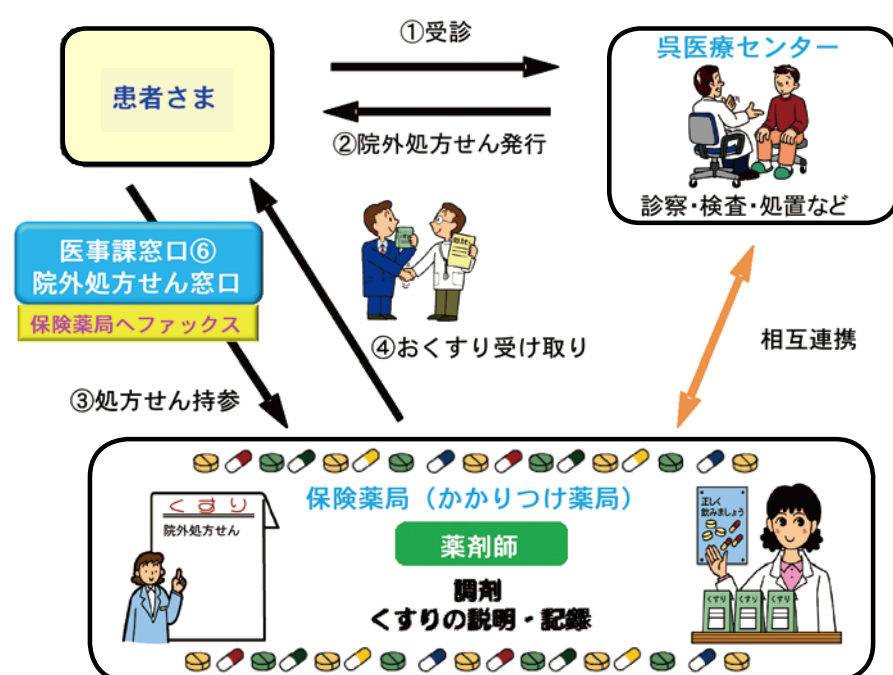
（患者さんのご都合にあわせてもよりの保険薬局を紹介します。）

病院薬剤師は、入院中の患者さんに、より安全で効果的なくすりの使用をサポートしています。

「**医薬分業**」の目的は、医師と薬剤師がそれぞれ専門家の立場から処方せんをチェックすることにより、患者さんに薬をより安全に使用してもらうことです。

処方せんには、お薬の名前や種類、数、使い方などが書かれています。

この処方せんを自宅の近くの保険薬局に持っていくと、その薬局の薬剤師が、お薬の内容や量、飲み合わせなどを確認したうえで、患者さんにくすりをお渡しします。



図：院外処方せんの流れについて

「かかりつけ薬局」とは

あなたが、いつも利用する薬局が決まっているとすれば、その薬局のことを「**かかりつけ薬局**」といいます。

どこの薬局を利用するかは、患者さんの自由です。

患者さんが、『かかりつけ薬局』をもたれることをおすすめしています。

『かかりつけ薬局』を持つことによっていくつかのメリットがあります。そのメリットによって皆さんが適正・適切な服薬ができ、安心して健康な生活を送ることが可能となります。

なぜ、『かかりつけ薬局』を持つと良いのでしょうか？

<メリット>

- ①あなたの「薬歴（お薬の服用の記録）」をつくります。
- ②いろいろなお医者さんから同時に処方せんが出たときなど、薬の飲み合わせ（相互作用）や重複がないかを確認します。

③大衆薬との飲み合わせも確認します。

④お薬についてわかりやすく説明します。

お薬の名前や効きめなどを書いたメモ（おくすり手帳）をお渡しすることもあります。

⑤薬以外のこと（健康食品や食物など）について何でも気軽に相談することができます。

「**病院薬剤師の病棟業務**」について

当院では、各病棟に担当の薬剤師がいます。

入院中の患者さんには、より安全で効果的にくすりが使われるよう薬剤師がサポートしています。

入院中、くすり（今まで服用していたくすりも含めて）について質問、確認したいことがありましたら、看護師等の病棟スタッフに気軽にお伝え下さい。担当の薬剤師が、説明にうかがいます。



図：おくすり手帳（例）

職場紹介 7B病棟

7B病棟看護師長 和气敬子

7B病棟は、ベッド数55床の呼吸器内科、眼科の混合病棟で、入院患者さんの年齢は70～90代と高齢です。呼吸器内科は化学療法、放射線治療を主とし、慢性呼吸不全患者のステロイドパルス療法なども行い、急性期から終末期の看護を行っています。また、人工呼吸器を装着し治療を受けている患者さんも少なくないため、季節を感じて頂く為に病棟内で七夕会やクリスマス会など、医師・看護師スタッフ全員でレクリエーションを企画し患者さんと家族の方に少しでも楽しんでいただけるよう努力しています。



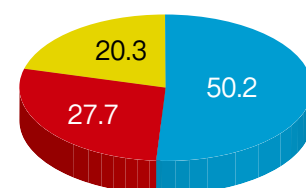
人工呼吸器の確認

眼科は短期入院による白内障手術を主としており、手術前後の看護及び、退院後の点眼指導を行っています。看護体制は固定チームナーシングを取り入れており、

2チームに分かれ看護しています。看護師は33名ですが、経験年数3年以下のスタッフが50%を占めているため、新人看護師には計画的な学習会を行い、2年目看護師にはケースレポートを発表することで知識・技術の習得に力を入れています。昨年度より呼吸療法認定士も加わり呼吸リハビリや口腔ケアにも力を入れ、スタッフのレベルアップにも取り組んでいます。

在院患者数 科別内訳

■ 呼吸器科 ■ 眼科 ■ その他



内科的治療は身体への侵襲が少なく、患者さんに与える負担も少ないことから、患者さんにとって有効的な治療と言えます。

私達は、患者さんが安心して安全・安楽に治療を受けていただけるように看護していくことはもちろんのこと、患者さん・家族の不安を緩和し、前向きに治療へ参加ができるような配慮を心掛けています。また入退院を繰り返す患者さんのQOLの向上を目指した看護が提供できるよう、日々努力しています。



7B病棟スタッフ

職場紹介 8A病棟

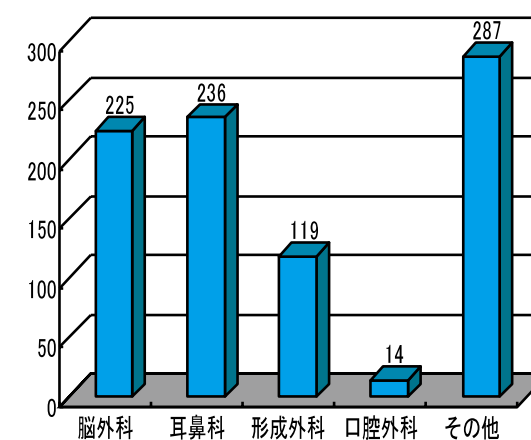
8A病棟看護師長 石井一枝

8A病棟は、病床数55床の脳神経外科・形成外科・耳鼻咽喉科・口腔外科の外科系混合病棟です。

主に手術前の検査や、手術、術後のリハビリや生活援助、手術前後の化学療法や放射線治療、高気圧酸素治療と幅広く、急性期から回復期の看護を行っています。手術の内容としては、脳神経外科では浸襲の少ない、脳血管内手術やステント留置術の件数が増えています。形成外科では、皮膚腫瘍の摘出術や眼瞼下垂症手術・植皮術が行われ、耳鼻咽喉科では、鼓室形成術や腫瘍摘出術の他に、高気圧酸素治療や放射線治療・化学療法を行っています。

看護体制は固定チームナーシングで、急性期・回復期・軽症手術と化学療法チームの3チームで看護しています。

平成21年度入院患者数



平成21年度手術件数



入学式を終えて思うこと

看護学校 48回生 松岡実穂

今年の4月、私は呉看護学校へと入学した。

中学校から看護師になることが夢であった私にとっては、とても嬉しい夢への第一歩であった。期待に胸をふくらませ、挑んだ入学式。知り合いの少なさに心細さを感じつつ、新しい環境におどおどしながら、私の看護学生デビュー初日は終わりを告げた。



デビューというのは、もっと輝かしいものにすべきであろうが、慣れない環境に弱い私は肩に力を入れすぎて終わってしまった。そんなおどおどしていた私は、優しく声をかけてくれた友達に多々助けられた。ただ話をすることができるということだけで、こんなにも心が軽くなるのかと、驚きを感じた。帰りにもらった教科書という名の多くの専門書たちを抱えながら、こんなにも多くの知識を詰め込んでいく事実と、ここでうまくやっつけられるかという不安を同時に抱え、早くも心が折れそうになっていた。



しかしオリエンテーションを終える頃には友達が増え、知らない人が減り、その日あった出来事を話したり、気軽に冗談を言い合える関係になった。そうして入学式に感じた不安は徐々に消えていった。授業が本格的に始

まり、その日教わったことをすべて整理しようとする、あっという間に1日が終わってしまう多忙な毎日になった。「明日に…」などと甘えた気分していると、すぐにやるべきことが溜まり、溜めた自分を恨みながら春休みにのんびりしていた自分に返りたいと思うこともあった。

そんなこんなで1ヶ月がたち、今の私がある。何の目標もなしに与えられたことを中途半端にしてきた私の目の前には、まとめそこねたノートたちが積み重なっている。「きちんとした正常な身体の仕組みが分かってこそ、異常が分かる。」という先生方の言葉を、1つ1つの授業を受けるたびに実感し、そして「異常が分かり患者さんに『看護』を提供できる看護師」に対する尊敬がより一層深くなった。そしてもう一つ感じたことがある。それは、「声かけ」の大切さである。看護師は必ず優しい声かけをして看護を行う。そんなことは当たり前だが、「声かけ」があるのとなないのとないのでは、不安感も信頼感も大きく変わると言うことを授業の中で実感した。また、私自身入学式の時に友達の「一声」に助けられ、現在の学校生活も多くの人からの「声」に助けられている。普通の生活でも心が軽くなるのであるから、病院に入院し非日常生活を送っている患者様はなおさらそうであろう。

私は、この今感じている「声かけ」の大切さを忘れず、新たな知識を増やし、自分のもっている知識を深めたいと思う。またこの1ヶ月を振り返り、目標を短いスパンできっちりと作り、充実した毎日を送ってこうと思う。

一年はあっという間に過ぎてしまう。この一年が終わるまでに、自分の目標としている看護師像へと少しずつでも近づけるよう、精一杯努力していきたい。



ナイチンゲール生誕祭 呉看護学生自治会行事

呉医療センター病棟訪問

ナイチンゲールについて
もっと調べておけば良かったな-



患者さんに「頑張って」と励まされ
うれしかった。

きれいに心を込めて
作った小物入れを渡
せて良かった。デザ
インは好評だった。



今年の生誕祭では笑顔でコミュニケーション
がとれ、楽しい時間が過ごせた。



「ありがとう」や「長生きして良かった」
と笑顔で楽しんでいただけた。



連携病院紹介（森本医院） 倉橋で21年

医療法人社団 森本医院 森本 忠雄

私は、昭和57年4月から、昭和63年11月まで内科レジデント、内科医師としてお世話になりました。その後、現在の場所で開業しました。学生のと時から倉橋に帰ることを公言してきた私にとって倉橋での地域医療は、いろいろ楽しくてあっという間に21年が過ぎた感じです。ついこの間まで、ドクター・ハリーの院内放送で6階まで走って上がっていたような感じがあります。呉医療センターでは、本当にいろいろ勉強させていただき、今そのありがたさをかみしめています。

呉医療センターでは循環器と、救急に携わっていましたが、開業するといろんなニーズがあり、今は亡き香川和徳先生に指導していただいた大腸内視鏡が、やっとできるようになりました。また、近所の腎不全の患者さんが、呉の透析病院に通院するのがつらいということから血液透析を開始して、現在は約40人の透析患者さんを診ています。できるだけ地域のニーズにこたえるためにいろいろ挑戦しています。

往診は得意とするところで、いろんな重症患者さんを診てきました。患者さん宅に浴槽を持って行って入浴をさせたり、いろんな処置もしてきました。これもみな呉医療センターでの経験があったからできたことですし、

いざ何かあればすぐに引き受けていただける呉医療センターがあるからこそと、本当に感謝しています。

また、今年で11回目となりますが、“アクアスロンくらはし大会”の会長をしております。泳いで走るだけの大会ですが、約250名の選手が参加してくれます。毎年参加してくれる人もいて、選手との交流も楽しみの一つです。昨年からくらはし遣唐使船まつりと共催となり、花火大会も行っています。今年も7月17日(土)に花火大会があります。

くらはし遣唐使船まつりの話が出ましたが、ここ倉橋は、遠く万葉の時代に遣唐使、遣新羅使の巨大船団が停泊して、万葉集に8首歌を残しています。それについて呉医療センター名誉院長の、大村一郎先生にお願いして、これまで年3回、合計十数回の万葉講演会を開催してきました。大村先生は、お忙しい中本当に詳しく研究され、毎回楽しい講演会になっています。次回は、11月の予定です。

本当に田舎ですが、その中でいろいろ楽しみを見つけています。どうか皆さんも倉橋に来てみてください。どうぞその時は、声をかけてください。



地域連携病院訪問記 ～マッターホルンリハビリテーション病院・呉中通病院～

地域連携副室長 貫 目 志 保

5月20日マッターホルンリハビリテーション病院、6月3日呉中通病院を訪問させて頂きました。今回は2病院と呉医療センターとのつながりの紹介をさせていただきます。

マッターホルンリハビリテーション病院では、白川泰山院長、鎌田百合子看護部長が温かく迎えて下さいました。マッターホルンリハビリテーション病院は、リハビリテーションを必要とする整形外科患者さんで、当院から年間100人を超える転院を受け入れて下さっています。鎌田百合子看護部長自らが毎日患者さん一人ひとりに声をかけておられ、スタッフの方々も一丸となって最高のリハビリテーションを提供できるよう研鑽されている様子が印象的でした。

呉中通病院は、中川俊文院長、高純子連携室長が快く迎えて下さいました。平成21年度、呉医療センターから200人近い患者さんを受け入れて下さっており、平成22年度は4月～5月末迄で、すでに80人近い患者さんが転院されています。急性期治療が一旦終了した回復期リハビリの患者さんを積極的に受け入れて下さっており、熟練したスタッフが幅広い対応を行っています。

2病院とも、呉地域のニーズをよく把握し、地域住民の方々に評価を頂ける病院として尽力しておられます。私達呉医療センター地域連携室も、“顔が見える地域連携”を積極的にすすめ、患者さんが安心して急性期治療からリハビリテーション転院が可能になるよう支援していきたいと思います。



マッターホルンリハビリテーション病院
白川泰山院長と鎌田百合子看護部長



(右) 呉中通病院 中川俊文院長
(左) 竹原和宏 当院地域連携室長

バリ舞踊のイベントを開催しました

医療社会事業専門職 小田 順子

4月30日(金)、当院1階玄関ホールにおいて、インドネシアの方々をお招きし、インドネシア家族会主催、医療センターボランティアKURE共催のバリ舞踊を披露していただきました。

現在、当院にはインドネシア人看護師候補生2名の方が国家試験合格のため勤務しており、その2名の言語通訳をインドネシア家族会の方が引き受けてくださっていたご縁で今回のイベントが実現しました。

「インドネシア家族会」は、インドネシアの学校に行けない子どもたちの支援や、日本との国際交流のため活動しているボランティアグループです。2010ひろしまフラワーフェスティバルにも参加されており、せっかくの

機会なので患者・家族の方にもダンス・演奏を見て楽しんでいただこうと企画されました。

はるばる来院したのは、総勢約30人の中学生。竹製の民族楽器の生演奏に合わせて仮面や民族衣装を身に付けたダンサーが様々な踊りを披露してくださいました。

この日、患者・家族の方に加え、職員、ボランティア合わせて約140人の観客は、インドネシアの神秘的な音楽やダンス、華麗な衣装を目にし、異国文化の香りを楽しましました。また、イベント終演前には、当院のボランティアグループからインドネシア家族会へ文具の寄付を行うなど、貴重な国際交流の体験となりました。



表紙に掲載する写真・絵画等を募集しております。詳細は管理課 庶務班長まで お願いします。

編集後記

傘が手放せない季節になりました。かつては田植えの終わった田んぼで、カエルの鳴き声を聞きながら、雨も必要なものだと感じていたものですが、最近では田んぼを見る事もなくなり、ただ煩わしさのみ感じるようになって来ている様な気がします。自然と共存している、この思いを忘れてはなりません。

編集長